

【紹 介】

ドイツの学校における金融教育の事例
——ハンブルクにおける「生徒の銀行業」——

山 口 博 教

紹介

ドイツの学校における金融教育の事例

——ハンブルクにおける「生徒の銀行業」——

山口 博 教

目次

1. はじめに
2. パンフレットの抄訳
 - ・理論から実践へ
 - ・強力な四つのサポート機関と確固としたコンセプト
 - ・柔軟なユニット方式システム
 - ・七つのユニットの概観
 - ・新企画! 「学費の調達」
 - ・「生徒の銀行業」の利点
 - ・教師達への助言と支援行動
 - ・照会・申し込み先 (省略)
 - ・プロジェクトのパートナー
3. まとめ

1. はじめに

2012年8月10日から渡独し8月24日までハンブルクに滞在した。ハンブルクではハンブルク大学のゲストハウスに滞在し、同大学資本市場研究所のハルトムート・シュミット教授 (Professor Dr. Hartmut Schmidt) と研究交流を行った。シュミット教授は証券市場論の専門家であるが、最近日本でも重視され始めている学校における金融教育がドイツではどのように行われているか、を私の方から問題として取り上げた。そしてドイツで調査を希望する旨を述べた。というのは日本においては、全国証券ゼミナール大会で数年前からこのテーマが設定されていて、私の学部ゼミ生がここ2・3年この部会に参加している。また、このテーマでは英米の実情についての

研究はかなり前から蓄積されているが、欧州についての情報はまだ少ない¹⁾。また日本においては端緒に付いたといってもよいほど比較的新しく、最近急速に関心が高まってきている。また近年教育学系の大学を中心として、日本において、また当大学所在の札幌市他においてもこのテーマで授業が展開されている所も出始めてきているからである²⁾。

以上のことを話していくと、シュミット教授は日本における金融教育の焦点や実施機関等について質問を出し、こちらの関心のありかを探ってくれた。そこで私が知っている限りでこれらのポイントをまとめ、これにもとづき報告した。この結果シュミット教授はいくつかの金融機関のこの問題での担当者に電話を入れ、2件ではあったが、聞き取り調査の予約を手配してくれた。

最初の1件目はウィルヘルム・フォン・フィンク・ドイチュ・ファミリー・オフィス社 (Wilhelm von Finck Deutsche Family Office AG) の専務 (Generallbevollmächtigter) をしているトーマス・ボルグハルト (Thomas Borghardt) 氏であった。氏への聞き取り調査にはシュミット教授も同席してもらい、8月20日午前10時から約2時間ドイチュバンク・ハンブルク支店の3階の間において独語で行われた。同社は不動産、中小企業経営、税制、法務上のコンサルタントを専門とする会社である。この関係で同族・家族に対し、相続や事業継承問題でのアドバイスや金融教育を行

う業務も取り込んでいるとのことであり、その業務内容が解説された。

次の2件目はハンブルク貯蓄銀行 (Hamburger Sparkasse, 略称 Haspa) の役員会スタッフ (Bereich Vorstandstab) で顧客向け広報 (Marktkommunikation, Leitung Kommunikation Privatkunden) を担当するライフ・イブセン (Leif Ipsen) 氏であった。これにはシュミット教授は同伴せず、8月22日午前9時から本店会議室にて私とこの滞在時途中から合流した当大学修士課程在学中の竹田哲とで1時間、英語でヒアリングを行った。

以上の2件の聞き取り調査のうち1件目は話の内容が込み入っているうえ、資料も提供してもらえなかった。それに対して後者では聞き取りの際に、同貯蓄銀行が発行していたパンフレットが提供された。そこでこれを抄訳することで、ドイツにおける金融教育の一端を紹介していきたい。このパンフレットは11ページからなり、表題は“Schüler banking. Wissen zalt sich aus.”である。直訳すると「生徒の銀行業、元の取れる学習」となる³⁾。なお括弧内の数字はこのパンフレットのページを示す。(以下では顧客向けのパンフレットであるため、文体を「ですます」体で記述することを断っておきたい。)

2. パンフレットの抄訳

・理論から実践へ (2ページ～)

学校は若者が人生において備えておくべき課題に対して責任を負っています。彼らが日常生活と卒業後の職業生活において、十分な心構えができる基本知識を身に付けさせることが必要です。そのためには一つの重要なテーマを見逃してはなりません。一般的金融教育の必要性です。近年このような知識はますます重要となってきています。というのは金融事情が複雑性を増し、個人破産を宣告する家庭が増大しているためです。

・強力な四つのサポート機関と確固としたコンセプト

学校における金融教育を促進するため、消費者教育をする金融サービス業務研究所 (institut für finanzdienstleistungen e.V.(iff)), Haspa, 学校・職業教育局 (die Behörde für Schule und Berufsbildung (BSB)), 学校・経済センター (das Zentrum Schule & Wirtschaft (ZSW)) が共同プロジェクトに結集しました。この「生徒の銀行業」プロジェクトの中で8学年から12学年 (14歳から18歳 - 山口) までの生徒達がロールプレー・ゲーム及びHaspa職員とのワークショップでの助言を受けながら金融のテーマに遊びを通してアプローチしていきます。ゼロ口座の架空開設、受信業務、金融逼迫時の理論的やりとりで生徒達は現実味を帯びた体験をし、また対応能力を伸ばしていきます。この中で若手世代が金融サービスのリスクとチャンスを正しく評価し、市場における大人の消費者としての役割を把握していくのです。

・柔軟なユニット方式システム (3ページ～)

iffが開発した生徒銀行という授業コンセプトは、ハンブルクの学校の学習指導要領 (Rahmenplan) と結びついています。これは日常の授業内で柔軟に組み込まれるか、プロジェクト週間内の特別授業で遂行されます。生徒銀行はユニット方式で提供されますが、個々にまたは相互に置き換えることも可能です。

・七つのユニットの概観

「ゼロの基礎」(Giro Basis) ユニット

「ゼロの基礎」ユニットでは生徒達はゼロ口座の基本規定と利用方法を学習します。模範事例と情報手段を利用して、生徒達は状況と必要に裏付けられたゼロ口座の選択基準を身につけ、またいろいろな銀行が提供する商品を調査します。

「ジロの展開」(Giro Plus) ユニット

ジロの基礎以外に、「ジロの展開」ユニットでは生徒達はロールプレー・ゲームを通して金融逼迫の原因を調査し、解決方法を探ります。

「信用の基礎」(Kredit Basis) ユニット

「信用の基礎」ユニットでは生徒達は信用の規定と多様な信用形態を学習します。見本事例と情報手段を通して、生徒達は状況と必要に裏付けられた信用の選択基準を身につけ、また提供される様々な信用商品の条件を比較します。

「信用の展開」(Kredit Plus) ユニット
(4 ページ～)

「信用の展開」ユニットの最初の段階は「信用の基礎」ユニットの内容を把握します。第二段階で生徒達はロールプレー・ゲームを通して金融逼迫の原因を調査し、解決方法を探ります。

「将来に対する備えの基礎」(Versorge Basis) ユニット

「将来に対する備えの基礎」ユニットでは生徒達はロールプレー・ゲームを通して将来に対する備えの重要性を学習します。生徒達はオーストラリアにおけるワーキング・ホリデーの生活費の計算を行い、滞在費捻出のための様々な貯蓄手段を調査し、いろいろな銀行が提供する商品を比較します。提供商品のリスクとチャンスを評価し、商品形態の選択に個人の事情と知的興味・関心を組み込み、長期的視野に立ち資金計画を立案することを学習します。

「将来に対する備えの展開」(Versorge Plus) ユニット

「将来に対する備えの展開」ユニットでは、オーストラリア滞在時に対する備え(上記参照)と老齢時に対する備えのテーマを取り上げます。生徒達はオーストラリア滞在時と個人的老齢補償との間に類似性を見て取りります。ロールプレー・ゲームを通して、生徒達は老

齢補償のための金融商品の選択を検討します。提供される商品を調査すること、老齢補償の選択する際に個人的事情と生涯計画を組み込むこと、インフレーションや生活費の変動要因を考慮に入れること、また老齢補償向け金融商品のリスクとチャンスを評価することを学習します。

・新企画! 「学費の調達」(5 ページ～)

「学費の調達」ユニットでは、生徒達は学習プラットフォームの助けを借り、また学費調達のための様々な手段を用意している専門家のワークショップにより、信頼を勝ち得ていきます⁴⁾。生徒たちが自分達の独自の関心と将来設計にしたがって老後に備えた模範事例の計画を立案することができるように、原則を理解して取引知識を獲得する基礎を形成するようにします。授業への取り組みの中で、生徒達は自分達の学問専攻と職業選択を検討し、専攻分野の長所と短所について資料を収集し、教育投資が成果を挙げるかどうか討論します。その後想定される学費を計算します。生徒達は一つのフォーラムにおいて、学生たちに専攻分野の費用についての経験やその調達について質問することができます。設定された課題にもとづき、ワークショップの中で明らかとなった調査グループの問題をさらに発展させるのです。このワークショップは授業内で周到に用意され、熟考されていきます。教師たちにはこのユニットがもつ最新のメディアを使い、また選択幅のある方法を用いてテーマ設定の際に焦点を定める機会を提供しています。

・「生徒の銀行業」の利点(6 ページ～)

理論と実践を結合した革新的授業のコンセプト

多様な選択性をもつ方法(ロールプレー・ゲーム、専門的ワークショップ、パズルのグループ、インターネットを利用した調査、

プレゼンテーションで成果を報告)

- # 校外学習と様々な資格をもつ専門家の協力
- # 消費者向け機関 iff による科学的支援
- # 現実的なテーマ
- # 時代に即した内容を持つコンセプト
- # 資料に裏付けられたな授業教材と詳細な背景資料
- # 生徒達の生活状況に対する具体的関与
- # チーム形成力, 情報伝達力, 表現力という重要な機能を仲介
- # 教師達へ提供される継続的な教育
- # 新たなメディアの導入
- # 入れ替え可能な授業の経過
- # 学生達との意見の交換

・教師達への助言と支援行動 (7ページ~)

あなた方が教師として、生徒を支援する立場にいることは自明です。授業を準備し生徒達の質問に責任を持って答えることができることが大切です。あなた方は「生徒の銀行業」のテーマで急速にまた目的を持って継続して教育を受ける手段を持っています。このために ZSW が iff と共同で丸一日を使った継続教育の機会を提供しています。

さらに iff が作製した、個別テーマ分野ごとの見本事例と詳細な背景情報が付いた授業のためのコンセプトと教材を提供します。さらにこれらに加えて、各ユニットに応じたプロジェクト・バインダーとプラットフォームへの案内を準備しています。これらについての詳細な情報と個別ユニット経過の概要は www.shulerbanking-hh.de で入手することができます。

Haspa では相談、質問、アドバイスのための各種情報を提供するために、あなた方とクラス向けに学校近隣の諸支店に固定した相談員を置いています。あなたの学校でこのプロジェクトを実施する場合にはただちに担当支店の行員と相談を行い、支店内で生徒達に助言をする予定日を取り決めていきます。ユ

ニットの専門的ワークショップは、iff が協力しています。

・照会・申し込み先 (8ページ~省略)

・プロジェクトのパートナー (9ページ~)

「生徒の銀行業」プロジェクトは、消費者教育をする金融サービス業務研究所 (institut für finanzdienstleistungen e.V.(iff)), Haspa, 学校・職業教育局 (die Behörde für Schule und Berufsbildung (BSB)), 学校・経済センター (das Zentrum Schule & Wirtschaft (ZSW)) により提供されています。これらの機関の協力と教師・生徒達と共同することが、科学と金融制度と学校の実践を関連付けるコンセプトを展開することを可能としています。このようにして、より実際に近づけることで教育力を向上させ、このコンセプトがもつ金融分野の信頼性と中立性及び実行可能性を確実にしていきます。

消費者教育をする金融サービス機関 (institut für finanzdienstleistungen e.V.(iff))

Iff は長年に渡り一般的金融教育と過剰債務の防止に携わってきました。その際には消費者センター及び債務者センターと密接に協力してきました。消費者との関係を持つ研究機関として、金融サービスというテーマを重視してきました。

「生徒の銀行業」プロジェクトは科学的に進められ、教師達に対して専門テーマに係わる背景情報を提供し、継続教育を行い、助言パートナーとして待機しこのプロジェクトの評価を行っています。

ハンブルク貯蓄銀行 (Hamburger Sparkasse (Haspa)) (10ページ~)

Haspa は5,500人の従業員と450の支店を持つドイツ最大の貯蓄銀行です。その最大の強みは創業以来、顧客の生涯の各局面における

相談業務です。このため、生徒や若人達の相談にふさわしい多くの若手従業員を用意しています。生徒や若人達と同じ目線で相談に乗り、銀行の各種テーマを分かり易く理解を深めるように伝えていきます。

Haspa は生徒達への印刷物と授業教材の提供により、またアドバイスと視聴覚教育用教材や訓練用教材の供給を行っています。学校に隣接する各支店ではクラスと教師向けの固定した助言担当者を置いています。

「生徒の銀行業」プロジェクトを支えることで、Haspa は以下のことに貢献しています。それは、若手世代が職業生活への参加に備えて、早い時期から金融サービス業務になじむようにすることです。職業教育見本市 EINSTIEG の発起人として、Haspa はすでに若者たち向けの職業オリエンテーションにおいても貢献してきています。

学校・職業教育局 (die Behörde für Schule und Berufsbildung (BSB))

BSB はこのコンセプトの発展と教材提供に関わっています。また学校における「生徒の銀行業」プロジェクトの導入を支持しています。このプロジェクトで、生徒達は経済教育—将来の人生管理—の拡大に向けた重要な土台を獲得します。

学校・経済センター (das Zentrum Schule & Wirtschaft (ZSW))

教師教育と教授法展開のための州立機関に付属する ZSW は、職業オリエンテーションと経済教育の分野の資格を導入し、「生徒の銀行業」と金融の基礎教育のテーマでの継続教育を提供しています。

3. まとめ

以上ハンブルクの学校における金融教育について紹介したパンフレットをみてきた。ド

イツにおける金融教育の取り組みには次のような特色があることが判明した。

第一に日本のような文部科学省という全国組織がなく、各州が責任を負っていることが挙げられる。また支援をしている関係機関も全国組織のものは少なく州単位のものが多い。ただし、ハンブルクで実施している金融教育は、すでに述べたが他の地域とも連携している。

ウェブサイトで見えていくと、フランクフルトでは学校銀行 (Schulbank) という名で呼ばれている金融教育システムがあり、ドイツ各地でこの種の教育システムが構成されていると推測できる。

第二に、非常に実践的な金融教育が柔軟に展開されていることである。ユニット方式を取っているため、学校ごとに組み合わせが自由に行える。毎週の授業でもよいし、集中講義の形がとられてもよい。この点では学習指導要領が確定したうえで、それに沿った規格化された授業が展開される日本とは相異が見られる。

第三には生徒の自立性が求められている。実践的中身としてはオーストラリアでのワーキング・ホリデーによる滞在経験をもとに生活費を計算し、その捻出を検討する企画が組まれている。さらにそれが済むと、次にはこの経験を踏まえて、大学進学時の学生生活に必要なとされる費用の計算とその捻出を検討する仕組みとなっている。これは実社会に出る前であっても、自分の生活を自分で管理する意識を持つように訓練することにつながる。

第四に、教師に対して基礎的及び継続的教育を保証していることが重要である。このために、学校に隣接する貯蓄銀行が、この業務を担当する人材を準備している。連絡があり次第いつでも相談にのるシステムが形成されている。私達が聞き取りに応じてくれた Haspa の担当者ライフ・イブセン氏のご夫人は小学校の教師ということであり、家庭においても

つねに情報が交流していることが伺われた。

以上、ドイツにおける金融教育の一端をハンブルクの地で経験し、これを紹介した。この資料が日本における金融教育を促進する一助となれば幸いである。

1) 英米における金融教育についての日本での紹介は以下の著作でみられる。山根栄次「金融教育のマニフェスト」, 年明治図書2006。この中で第3章が「アメリカの学校における金融教育」, 第4章が「イギリスの学校における金融教育」となっている。また最新のものでは新保恵志編著『金融・投資教育のススメー投資の学び方と投資教育のあるべき姿』金融財政事情研究会2012年。この本では、3章が「英米の金融教育の現状と日本の金融教育の課題」となっている。

2) 北海道教育大学金融教育プロジェクト執筆・編集, 『未来を担うこどもたちの金融教育ー小学校・中学校・高等学校で実践できる「金融教育事例集」』, http://www.hokkyodai.ac.jp/finance_net/top.html。このプロジェクトは数年前から同大学が株式会社北洋銀行と提携し行っている。平成23・24年度には札幌校・釧路校・旭川校をネットで繋ぐ夏季集中講義の形でこのテーマでの授業が行われた。筆者は、この23年度のホームページを見て、プロジェクト推進者の1人である札幌校の濱地秀行講師とコンタクトを取った。そして、平成24年8月6日から3日間開講された授業の一部の聴講を依頼したところ、許可してもらうことができた。このため6日の授業に3年目ゼミ生2名を伴い聴講させてもらった。また院生の竹田は大学院の授業と重なったため、この日は参加できなかったが、7日にこの授業に1人で聴講生として出席させてもらった。

濱地講師には、この場を用いて御礼申し上げます。

なおこのホームページから東京学芸大学とみずほファイナンシャルグループとの間でも同様のプロジェクトが進められていることがわかる。

3) Eine Kooperation von Institut für Finanzdienstleistungen e.V., Behörde für Schule und Berufsbildung der Freien Hansestadt

Hamburg und Zentrum Schule & Wirtschaft, gefördert durch Haspa, “Schüler banking, Wissen zahlt sich aus.” なおこの内容は以下のウェブサイトでも見られる。www.schulerbanking-dh.de こちらをみると同様のプログラムがフライブルクとエッスリンゲンの3地域で実施されていることがわかる。

4) ここでいう「学費」は授業料も含むが、ドイツの授業料は近年導入されたが、長らく無料であった。導入された授業料も日米比較で見ると高額なものではなく、学費の内容は学生生活を送るための生活費が中心である。

1. 本稿脱稿後に以下の著作を入手した。今後この分野では重要文献となるため付加しておく。貝塚哲明・吉野直行・伊藤宏一 [編著], 『実学としてのパーソナルファイナンス』(日本FP学会研究叢書) 2013年3月, 中央経済社。

2. パンフレット翻訳許可は、イプセン氏の紹介でiffのアンネ・シェルホーヴェ (Anne Schelhowe) 氏よりいただいた。



正 誤 表

北星学園大学経済学部第53巻 第1号 (通巻第64号)

頁・行目	誤	正
149頁 上から 3行目 (左)	9月	8月
154頁 上から 1行目 (右)	Scgule	Schule
執筆者紹介	韓 文熙 経済学部 教授	韓 文熙 経済学部 准教授